

せいしゅ し と げんこうろく  
《聖書》使徒言行録 3:13-, 17-19

## し と せっきょう 使徒たちの説教

し と げんこうろく なか せっきょう  
使徒言行録の中には、ペトロの説教が、  
しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう  
2章、3章、4章、5章、10章に、ス  
テファノの説教が、7章に、パウロの説  
きょう しゅう しゅう しゅう しゅう  
教が、13章、14章、17章、22章、  
しゅう しゅう つた  
24章、26章などに伝えられています。

こうした使徒の説教は、それぞれの使  
と と きどき かた か のこ  
徒がその時々語ったものを書き残した  
かんが  
ものだと考えられがちです。しかし、よ  
く しら きょうつうてん み  
く調べてみると、そこに共通点が見られ  
ます。つまり、イエスが十字架にかけら  
れ ころ ころ かみ  
れて殺されたこと、このイエスを神がよ  
み が えらせたこと、証人のこと、悔い改  
め の すすめ です。

こうした共通点が見つけられるように  
なると、これは初代教会のケリュグマ  
せんきょうないよう ず しき  
(宣教内容)の図式にしたがっていると  
してき  
指摘されるようになりました。たしかに、  
わたし つか しんこうせんげん ず しき  
私たちがいま使っている信仰宣言の図式  
ちか たし  
に近いことは確かです。

せいしゅ か のこ まえ でんしゅう  
聖書として書き残される前に、伝承と  
かたち つた  
いう形をとって伝えられていましたので、  
し と つた でんしゅう したが せんきょう  
使徒たちは伝えられた伝承に従って宣教

おこ かんが  
を行ないました。ですから、かれらの語  
ことば なか ある でんしゅう み  
る言葉の中に古い伝承が見いだされても  
おかしくありません。

しかし、もう一歩考えをすすめて、当  
じ ふんがく ひょうげんほうほう ちゅうい む  
時の文学の表現方法に注意が向けられね  
ばなりません。ギリシヤを中心に発達し  
たヘレニズム文化の中で、当時作品の中  
ふんか なか とうじ さくひん なか  
の主人公の口をかりて作者の主張を述べ  
しゅじんこう くち さくしゃ しゅちゅう の  
る文学様式がさかんでした。ギリシヤ語  
ふんがくようしき  
に精通していると自認するルカ福音書記  
せいつう じ にん ふくいんしゅき  
者は、このような文学様式を見逃しませ  
しゃ ふんがくようしき みのが  
んでした。彼は使徒たちの説教の中に自  
かれ し と せっきょう なか みずか  
らの神学を入れることに努力しました。

ふくいんしゅ し と げんこうろく とお  
ルカによる福音書と、使徒言行録を通  
つよ きょうちゅう  
して強く強調されているのは、悔い改め  
く あらた  
ということ。罪人が悔い改めるとき、  
か こ せきん と かみ  
過去の責任を問うことなく、神がゆるし  
てくださるという点は、ルカ福音書記者  
し そう とくしゅく てん  
の思想の特色です。こうした点をふまえ  
て、あらためて説教の文章を読むと、確  
かれ し そう とくしゅく あらわ  
かに彼の思想の特色が表れていることが  
わ かれ  
分かります。彼が、ペトロにしろ、ステ  
ファノにしろ、パウロにしろ、神の霊の  
かみ れい  
道具としてしか考えていなかった以上、  
どうぐ かんが いじょう  
こうした描き方は不自然なものとはなら  
えが かた ふ し ぜん  
ないのです。